

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～

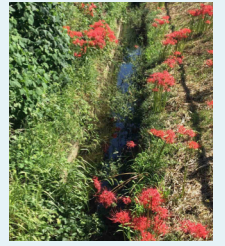
2023 年
9 月



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：Extension & Membership Conservation



2023-24 年度 クラブテーマ「地域と繋がろう・地域に知らせよう」



右上と中 2 枚：8 月 25 日から 29 日までネパールのカトマンズで開催された「アジア太平洋地域ユースコンボケーション 2023」に東日本区が過去最高 13 名の若者を派遣。地球市民への道を数歩前進。

左上中：浅羽会長、世界 YMCA 同盟新館を訪ね、カルロス総主事と 2 写。由緒ある前会館（旧クーベルタン邸）は確かに狭くて不便だった。

左下：ワイズの新本部事務所はレマン湖に近い。職員のトレーシーが気を利かせてアジア太平洋地域歌集を持ってアピールしてくれた。



今月の聖句

あなた方が、経験した試練はみな、人の知らないものではありません。

神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練に遭わせることはなさいません。むしろ耐えられるように、試練とともに脱出の道を備えてくださいます。

コリント人への手紙 1 10：13

9 月「暑秋」例会 案内

日時：9 月 16 日(土)午前 10 時～12 時
会場：浦和 YMCA 北浦和駅西口 歩 4 分
プログラム：ジェンダーを学ぶ (2)

リソース・パースン：矢野和江氏



10 月 よる談会

・気楽に知り合い、和めるまじめな会

日時：10 月 9 日 (月) 午後 6 時～8 時
会場：サイゼリア (浦和駅東口)

* 会計は飲食した分を各自お支払いください。

～ エッセーズ ～

◆ 「いくつになっても、学んで、行動して」

新井純子



33歳の時、神奈川県の小さな市で公民館の非常勤職を再開。その時「フェミニストってどんな人のことですか」と他の職員さんたちに質問したところ、「新井純子さんのような人」でした。それが「ジェンダー」「男女共同参画」「差別」などとのつきあいの始まりです。

たくさんの本を読み、多くの講師の話を聴き、一緒に学ぶ人たちと語り合いました。結果、自分のこれまでの経験を振り返る機会を得ました。「なるほどこれってジェンダーだ」「自分の努力不足だけではなかった」「女性たちに共通の課題だ」「私も知らないうちに人を差別していた。傷つけていた」と気づくことばかりでした。

歴史を紐解けば、今の日本の常識は古く昔からのものではなかったり、海外での暮らしを経験したりすれば日本の常識は世界の常識にあらずということも理解します。反面、「女性」というだけで世界共通の差別を受けていることもあります。そんなことを自分なりに言語化していけば、もやもやは少なくなります。さっぱりと暮らしが整います。

ある女性社長は『「気が強い」と言われつけました』と語ります。海外生活から戻ったばかりの当時中学1年生の娘は「女子があぐらなんて」と先生に言われて戸惑っていました。私自身「女の子だから」「妻だから」「母だから」と世間から言われつけてきました。高齢世代になり「性差というより、人間としてどうなのか」を基準に暮らすようにしています。

今回、男性と、それもちよつと先輩たちと「ジェンダーの学び」を一緒にさせていただくなんて、と感慨深いのです。どうぞよろしくお願ひします。❖

新井純子氏略歴：転勤族の妻として、国内外様々な町で子育てをする。住んでうれしい町、人が人を呼び、知恵が知恵を生む場として、2009年さいたま市南区に「ヘルシーカフェ『ノラ』」をオープン、現在に至る。

なお2022年2・3月号ブリテンに「ノラ」訪問記事を掲載。浅羽)

◆ 「フェルネ・ヴォルテール＝ジュネーブ」

浅羽俊一郎



クラブ会長3期目ともなり、緊張が解けたか、7月末に部の評議会があることを忘れて、チケットを手配。評議会当日ジュネーブ入りした。メンバーの皆さんには迷惑をおかけしたが、お陰様でひと月にわたる単身のアパー

ト暮らしをこなすことが出来た。でも自力ではない。親しい数家族とつながり、言葉の障壁や行政手続きの件で助けてもらうことは一度ならず。

ほとんど外出しなかったが、世界YMCA同盟の新ビルとワイズ国際本部の新事務所を訪問できた。後者は湖と国連にも近い一等地だ。(1頁写真参照)

今回滞在中、あるイベントの挙行を思いついた。ジュネーブ近在のUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)退職者の集い!8月中旬に会った仲間に相談したら「やろう、手伝う」と二つ返事。親睦が主目的であること、ホストは会場と紙容器のみ提供すること、飲食物は持ち寄り、ゴミは持ち帰りが条件で、誰でも参加可。早速フェイスブックで元同僚たちに趣旨を伝え、拡散してもらった。結果15名が来宅。現役の頃は一般職、専門職、局長であっても今はただの退職者同士。10数年ぶりに再会した仲間、初対面の人にも似た現場体験や共通の知人が多く、すぐ打ち解けるのを見るのは心地よかった。海を越えた遠方の友人からもFBで応援のメッセージが届いた。

私にとってUNHCRの23年間はやはり特別だったと改めて感謝したい1日だった。



この原稿を書いていて、かつて千葉YMCAの職員だった時分、検見川のアパートに近所の家族を招いて、狭いながらも楽しい集いをしたことをふと思い出した。どうもYMCA時代に身につけた趣向かもしれない。❖

写真略説(順不同): UNHCR退職者会をフィールド感覚でアパートで試行 / アパートの近くの公園 / ワイズ国際本部は由緒あるビルの1階(景観を損ねるロゴは張れない) / ご存知レマン湖岸の大噴水と旧市街の路地 / ジュネーブのコロナヴァン駅 / 世界YMCA同盟の地下資料保管室。ウィリアムズ卿が写っている集合写真が飾ってあるそばの棚にはシカゴYMCAの1890年代のファイルが無造作に積まれていた / ますます充実するフランスの自然食料品店にズラッと並ぶ豆類など。

AYC 2023 直後報告

* 8月25日～29日まで開催された2023年アジア太平洋地域ユース・コンボケーション（以下AYC）についてユース事業委員の衣笠メンからの急ぎで全般報告・概評をいただいた。近いうちに参加ユースによる報告書がまとめられる予定だ。



今回、ネパールの首都カトマンズで行われたAYC 2023はいろいろな意味でターニングポイントになった。

1. 参加ユースの数と所属団体

参加人数は全体で50数名。日本から16人（東日本区から13人、西日本区から3人）で過去最大の参加となった。

所属団体は都市YMCAリーダー（東京YMCA、とちぎYMCA）、スタッフ（山梨YMCA）、学生YMCA（中央、立教）、一般大学生（慶応義塾、武蔵野）、ワイズコメット（西日本区ワイズメンの子女で大学生）など。ネパールへの関心と意識の高い一般大学生の参加もあり、所属団体の違いを超えたユースの交流ができた。

2. 4回の事前説明会の重要性を再確認。

「学生YMCAに関して」の説明が日本YMCA同盟からあり、学Y参加者はもとより、都市YMCAメンバーも学Yに対する認識がより深まった。又、参加ユースのワイズメンズクラブおよびYMCA理解の良い機会となったと思う。

3. 広がった協力クラブの輪

東日本区から13名のユースの参加に対応して推薦・支援するクラブの拡がりがあり、支援クラブへの帰国報告会によって、ユースとの交流が実現し、さらに支援クラブメンバーのユースへの認識が深まった。

4. 日本ユースを代表に選出

今回、アジア太平洋地域のユース代表に風間奈月さん（山梨YMCAスタッフ）が選ばれ、日本人ユースの存在感が高まった。

5. 準備段階と帰国後の報告会について

今回は早い段階から広くワイズメンズクラブにAYC 2023参加ユースの推薦と支援を呼びかけ、それに呼応して多くのユースが参加できた。4回の事前説明会には西日本区のユース担当者なども参加し、東西両区で準備が進めることになった。

帰国後も早速多くの推薦・支援クラブにて開催された報告会ではスライドを交え、ユースが率直に感想や自分のこれからの課題を語ってくれた。参加ワイズもユースと直に話すことで改めてAYC事業の意義を理解したと思う。

次のIYC 2024（ドバイ）およびAYC 2025（熊本）への足がかりが出来始めたと言える。（衣笠 記）

◆ 埼玉3ワイズ合同例会 メモ



毎年1回は開催を心にかけている埼玉3クラブの合同例会。普段から行き来はあるが、改めて大勢が一堂に会すると単独例会では味わえない華やかで、賑やかな雰囲気が楽しめる。特に女性たちの滢刺とした笑い声は新鮮で嬉しい。

今回は9月9日に所沢YMCAで開催された。テーマは上記「AYC 2023」参加ユースによる報告会と手作り夕食会。メイン・ゲストはユースの菱山紀武氏と小見萌々花氏。他に関東東部部長の長尾氏と書記の高田氏が公式訪問で遠方から参加。他クラブのビジター、ゲスト数名と幼児で総勢29名。

前半は菱山さん、小見さんがスライドを駆使して報告してくれた。初のネパール体験と、初の報告ということで緊張しているのは分かったが、せめて何を話し合ったのか、もっと聞きたかった。それにしても他国のユースと比べて語学力が弱くて話し合いに参加できないというのはほぼ毎回のこと。

因みに交流目的のアジア太平洋地域のAYCと異なり、IYCは欧米・インド・中南米の優秀な若者がエンパワメントを競って参加する。日本のユースがそれに対応できるような方策を考える意味でも「ターニングポイント」だと言えよう。

今回の合同例会を企画し夕食を備えて下さった川越、所沢クラブの皆さん、歌を指導した衣笠メン、AYCユースの二人に心から感謝します。（浅羽 記）

◆ 9月夜談会 メモ



9月11日の夜談会の会場は、さいたま新都心駅近くの中華店から、浦和駅東口の「サイゼリア」に変更。あいにく新会場に集まったのは4人。メンバーは上松、浅羽の二人で、ビジター・ゲストは常連の大輪さんとその友人の中澤さん。麻雀サイズだった。早速注文となったが、若いウェイターは「注文はその伝票をお願いします。品名でなくコードをお願いします」と対話を求めないAI的な対応でテーブルを離れる。それまで慣れてきた中華店のやさしい対応との違いにおっさん達はと惑う。でもその間も4人のおしゃべりは止まらず。若者や宗教のことなど2時間話し続け、午後8時に閉会。割り勘でなく各自自分の飲食分を支払うという試みを今回から導入。

駅の近くまで来て写真のことを思い出して撮ったのがこのセルフイ。別れ際に「私はこれから温泉へ」と上松先輩。いい雰囲気でした。(浅羽 記)



お便り

- ◆ **伊藤メン** 体調を整えている最中です。もう少し休みます。
- ◆ **水無瀬メン** 今リハビリ中です。
- * お二人が元気になってクラブ例会に顔をでしてくることをお祈りしています。
- ◆ **浅羽メン** 2年に渡る100周年音楽プロジェクトの担当としてオンライン月例会議と歌集作りに携われたことは何にも変えがたい体験でした。海外に新たに仲間ができ、音楽でワイズを盛り上げようという同士ともつながりました。今後はズームで活動していこうと考えています。
- ◆ **今月の俳句 堀和メン (俳号 愚道)**

① 観るだけでも心は踊る運動会

若い時は走る競技が得意でした。年をとり体は全く動かなくなりましたが、孫の走る姿を観るだけでわくわくしてきますね。



② 音もなく瞬間移動初とんぼ

夕方少し離れたところでトンボを発見。

③ 洗濯機泳ぐTシャツ夏終わる

たまった洗濯物を洗濯機に放り込みました。Tシャツが泳ぐように回っています。



YMCAの小窓から

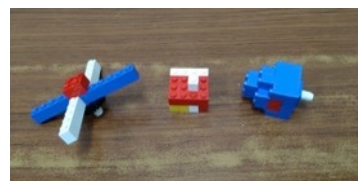
先日、放課後等デイサービスにきたメンバーがクラス前にブロックで独楽を作り始めました。「独楽」というモノの形をイメージしながら手先を動かし、「回る」という機能を持たせなければならない創作活動。「これを活動でやってみたら面白いかも!」と思い、取り入れてみたらなかなか良い反応で。「独楽ってどんな形してたっけ?」「上下に棒が出てたな…」、何とか形作ってみていざ回してみたら上手く回らない。「じゃあどうしよう」「他のメンバーのを参考にしてみようかな」などなど、問題解決に必要な「思考のアイテム」がたくさん出てきました。トライアル&エラーを繰り返しながらより良い物を作り出す楽しみを感じてもらえていたら嬉しいなあと思っています。

写真は小学生が作った独楽3つ。

左:なかなかできなくて指導員が作ったものを参考に作ったもの

中央:独楽っぽい形になってきたけど中心に棒がくるよう形作れず、どうしたらよいか考え中のもの

右:なんとか棒を中心にする事ができたけど巧く回らなくて考え中のもの (職員 坂室由美子)



お知らせ

◆ 第35回 ユースボランティア・リーダーズフォーラム (YVLF)

今回で35回目となるYVLFは9月29日から10月1日まで東京YMCA山中湖センターで開催される。東日本区の各地のYMCAから参加する経験の浅いリーダーたちが2泊のキャンプ生活を通して、Yキャンプを学習し、交流する。ワイズが資金援助している。

◆ ソングフェスト・ナイト (仮)

日時: 10月1日 (日) 午後9時~11時
会場: ZOOM (オンライン・イベント)

100周年プロジェクト“SongFest”の第2フェーズとして、ASP歌集から色々と歌って交流します。

出席者	統計	出席者	会員	ゲスト/ビジター
9月	合同例会	29	3	
9月	夜談会	4	2	2